

2026年3月26日

株式会社 四国銀行



NTTデータ地銀共同センターの「共助モデル」高度化に参画

～モノ・ナレッジ・ヒトの相互共助により、地域金融機関の共通課題に対応～

株式会社四国銀行（頭取 小林達司）は、株式会社NTTデータと地銀共同センター^{注1}参加行とともに、新たな共助モデルの高度化に取り組むこととお知らせします。

将来的な人口減少、IT人材不足、高度化・巧妙化するサイバー攻撃、AI等の新技術への対応などの急速な環境変化を見据え、システム共同利用の枠組みを超え、業務プロセスにも踏み込んだ「新たな共助モデル」への進化が不可欠であると判断しました。

具体的には、金融庁「金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドライン」に基づく対策高度化の共同推進、融資をはじめとする専門性の高い業務の高度化・省力化を目指したAIサービスの実装・共同研究、デジタル技術を活用したオペレーション改革の共同検討を開始しています。

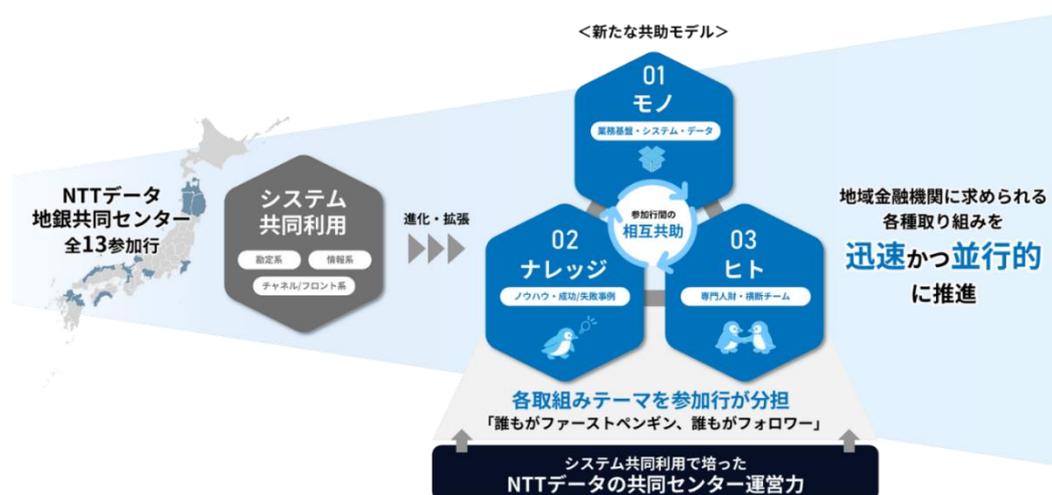


図1. 地銀共同センターが目指す共助モデルの高度化・拡張イメージ

本共助モデルは、参加行が「モノ・ナレッジ・ヒト」の3要素を相互に活用し、支え合いながら全体最適を実現する取り組みです。安心・安全で持続可能な金融サービスを提供することで、お客さまにより一層質の高いサービスをお届けできるよう努めてまいります。

<本取組みにより当行が実現すること>

(1) 経営基盤の強化

- 周辺システムやツールの共通化によるコスト最適化
- 制度改正・技術変化への迅速な対応

(2) 地域への還元

共助モデルによって生まれる経営資源や高度化の成果を、以下の分野へ還元してまいります。

- 融資・各種手続きの迅速化による利便性向上
- 強固なサイバーセキュリティ体制による安心の提供
- データ活用による最適な金融サービスの提供

(注1) NTT データが構築・運営する、地方銀行・第二地方銀行向け基幹系共同センター。

参加行は四国銀行、京都銀行、千葉興業銀行、岩手銀行、池田泉州銀行、あいち銀行、福井銀行、青森みちのく銀行、秋田銀行、鳥取銀行、西日本シティ銀行、大分銀行、山陰合同銀行

以上